

RESAS（地域経済分析システム）を活用した
いなべ市の地域経済動向の分析

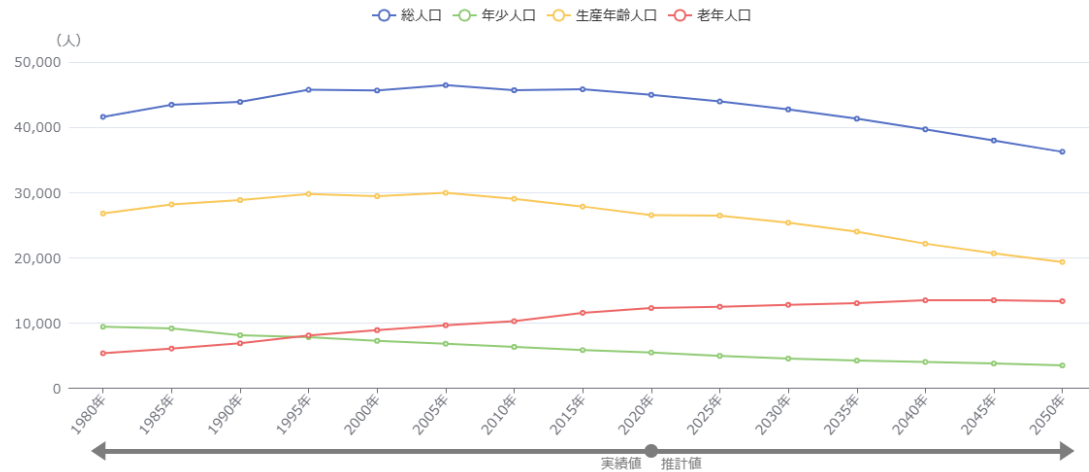
令和7年3月25日
いなべ市商工会

RESASとは

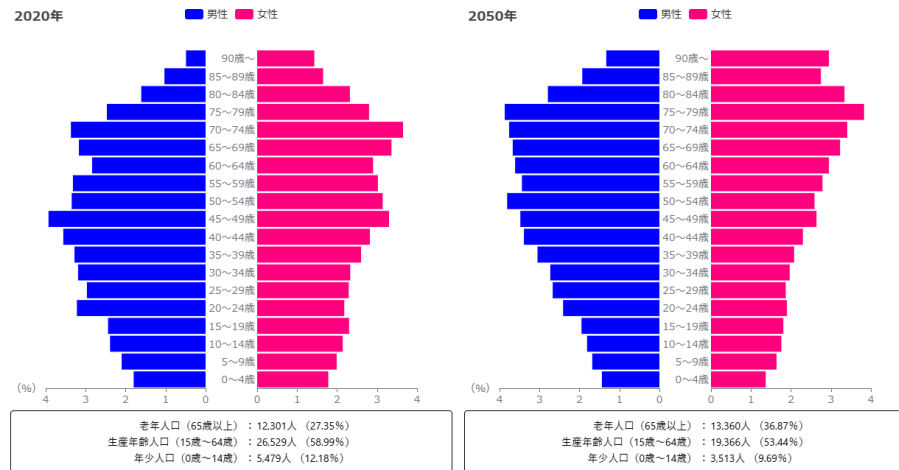
RESAS（地域経済分析システム）とは、各種統計資料を「見やすく、わかりやすく」したサービスです。地域の人口構成や将来の人口推移を把握することができるため、経営戦略策定やマーケティング調査における基礎資料として活用できるので、ぜひ参考にしてみてください。

リンク：[RESAS 地域経済分析システム](#)

人口



* 人口マップ → 人口構成 → 人口推移



* 人口マップ → 人口構成 → 人口ピラミッド

年齢別人口推移 (2020年)

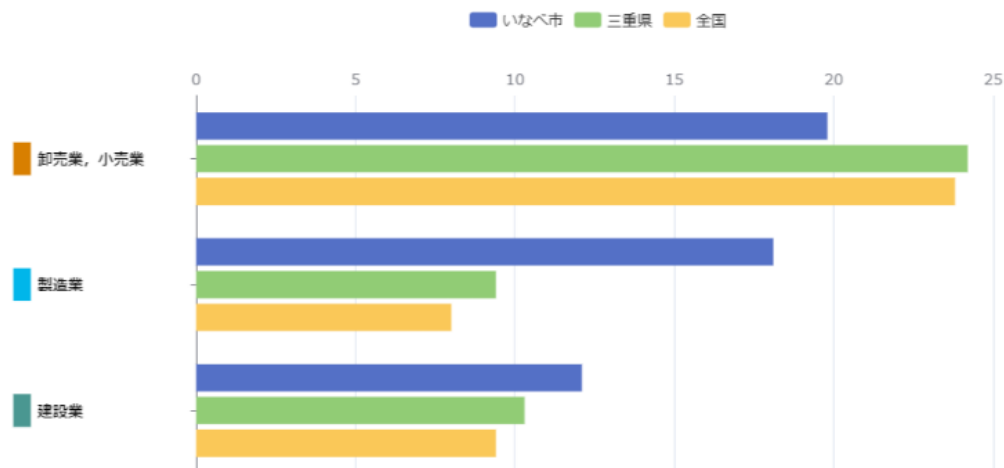
2020年の総人口は 44,973人。15年前 (2005年) の46,446人をピークに年々人口を減らしています。将来人口をみると、5年ごとに1,000人を超えるペースで減少が続く見込みとなっています。年齢別人口の三つの区分でみると、年少人口は減少が続いており、老年人口は増加が続いています。生産年齢人口は2005年まで増加傾向を示していましたが、現在は減少に転じています。よって、少子高齢化を示すグラフとなっています。

人口ピラミッド (2020年)

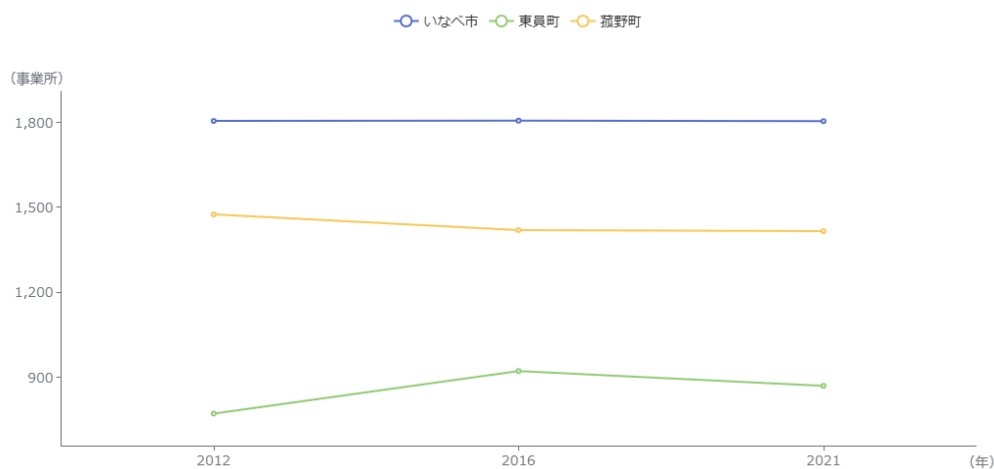
現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフです。高齢人口の割合をみると、2020年の27.35%から2050年には36.87%まで上昇する予測となっています。特に、80歳以上の人口は全体の約15%を占める予測となっています。女性の人口割合に限ると、75歳~79歳をピークに若い世代の人口割合が徐々に減少しています。年少人口は、男女合算で10%を下回る予測となっています。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、高齢人口は65歳以上を指します。

産業構造



* 産業構造マップ → 産業構造分析 → 産業構成 → 事業所数 (事業所単位)



* 産業構造マップ → 産業構造分析 → 推移 (全産業) → 事業所数 (事業所単位)

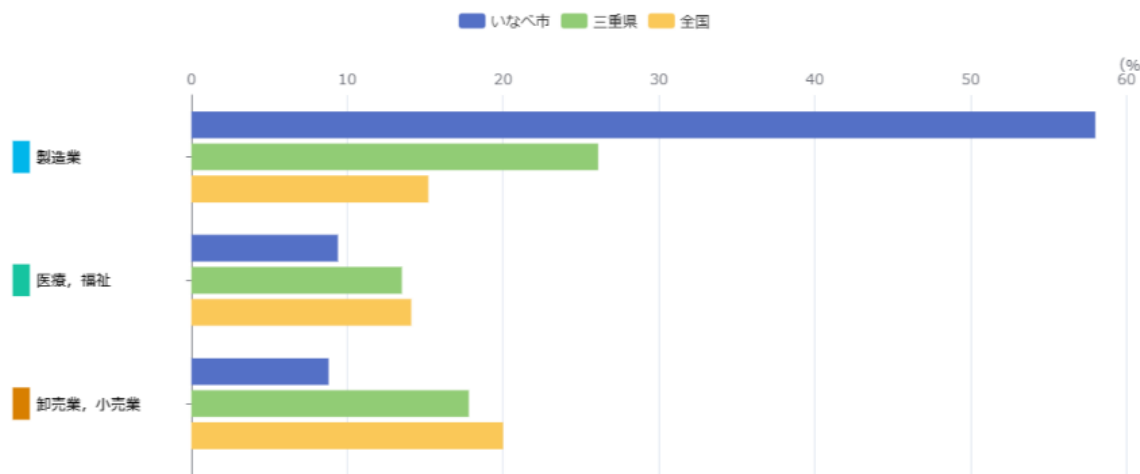
産業構成割合 事業所数 大分類 (2021年)

2021年のデータでは市区町村単位で業種ごとの事業所数を示したグラフを見ることができます。もっとも多いのは「卸売業・小売業」の357事業所ですが、全国・三重県全域と割合を比較すると約5%低くなっています。特徴的な数値として、2番目に多い製造業が327事業所あり、全国・三重県全域と割合を比較すると2倍程度の差があります。また、3番目に多い建設業においても高い割合を示しています。

事業所数の推移

市区町村単位で事業所数の推移を見ると、いなべ市においては1,800事業所を超える件数で変動がほとんど見られません。隣町の菟野町では約4%減少していますが2016年から比較するとほとんど変動していません。もう1つの隣町の東員町では、2016年には約20%増加していますが、2021年には約10%減少しています。コロナ禍において全国的に事業所数が減少していることを考えると、他地域と比べて減少幅の少ない地域であると言えます。

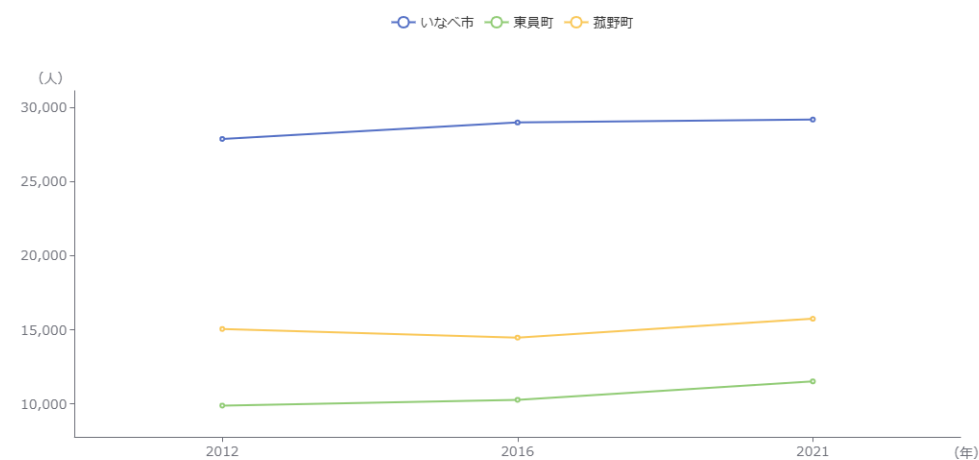
産業構造



* 産業構造マップ → 産業構造分析 → 産業構成 → 従業員数（事業所単位）

従業員数構成割合（2021年）

2021年のデータでは市区町村単位で業種ごとの従業員数を示したグラフを見ることができます。もっとも多いのは「製造業」の16,911人で全体の58.0%を占めています。全国・三重県全域と割合を比較すると三重県全域と比較しても2.2倍、全国との比較においては3.8倍という特徴的なグラフとなっています。「卸売業・小売業」の従業員数割合においては、他の半分程度の割合しかなく、「製造業」の従業員数の多さが際立つ結果となっています。

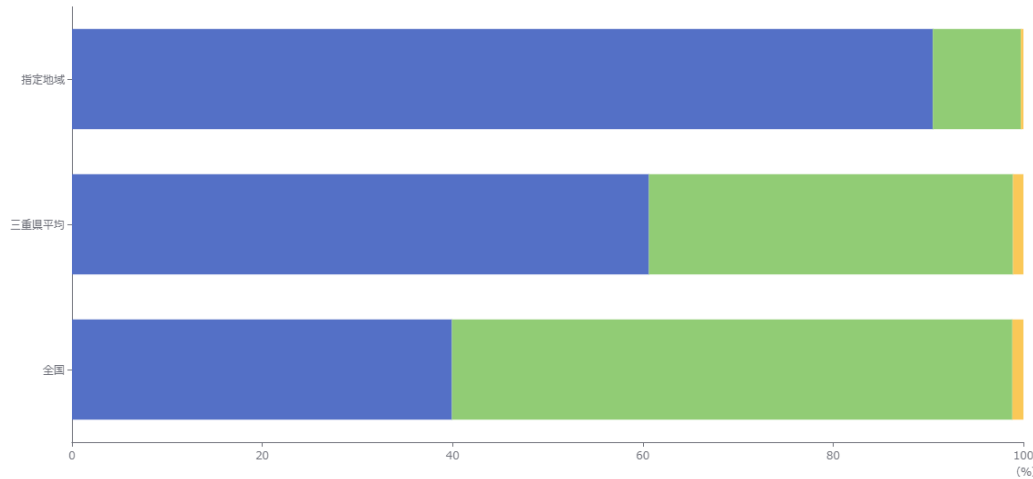


* 産業構造マップ → 産業構造分析 → 推移（全産業） → 従業員数（事業所単位）

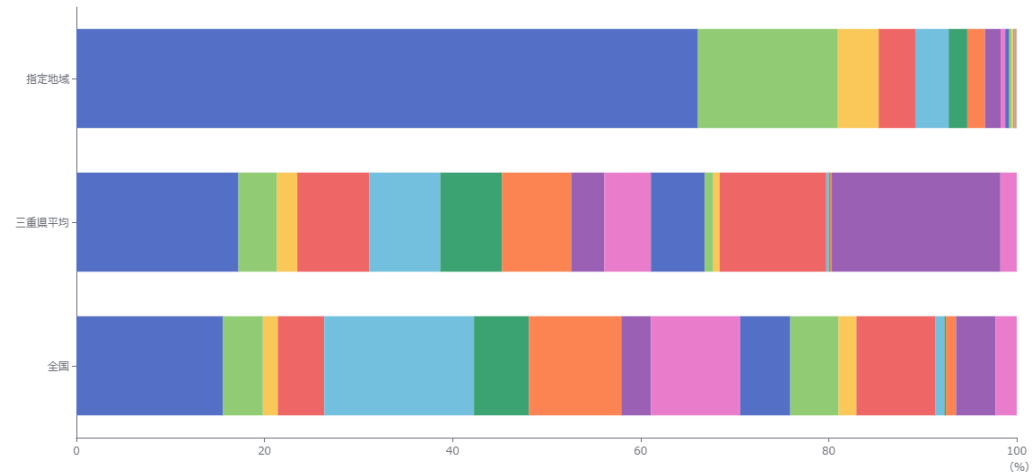
従業員数の推移

従業員数の推移を見ると、2021年の従業員数は29,157人。2012年の27,853人と比較すると4.7%増加しています。隣町の菰野町も同程度の4.6%増加、東員町においては16.5%の増加となっています。三重県全体では2.7%の増加となっていることから、当地域は県内の他地域と比較しても従業員が増加している地域であることが分かります。他の地域をさらに見てみると、北部地域は増加傾向の市町が多く、南部地域は減少傾向の市町が多いことが分かります。

産業構造



* 地域経済循環マップ → 生産分析 → 地域内産業の構成を見る



* 地域経済循環マップ → 生産分析 → 地域内産業の構成を見る (産業ごと)

地域内産業の構成割合 (生産額 (総額)) (2018年)

いなべ市の産業の構成割合 (生産額 (総額)) を全国・三重県平均と比較したグラフです。もっとも割合が高いのは2次産業で90.5%を占めています。一方、3次産業は9.3%と、全国の58.9%や三重県平均の38.3%と比較するとかなり低くなっていることが分かります。

※ 1次産業・・・農業 など 2次産業・・・製造業、建設業、工業 など
3次産業・・・商業、サービス業、飲食業 など

地域内産業の構成割合 (生産額 (総額)) <産業ごとの内訳：2次産業> (2018年)

産業ごとの内訳で2次産業を見ると、もっとも割合が高い「輸送用機械」が66.1%、2番目に割合が高い「非鉄金属」が14.9%、3番目の「窯業・土石製品」が4.3%と、全国・三重県平均と比べても高い割合を示していることから、地域の特徴がグラフに示されていることが分かります。

地域経済循環

地域経済循環図

地域経済循環の概略を示すもので、この図で地域の経済の全体像と生産・支出・分配の各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握することができます。

※棒グラフの「青い部分」は地域内で発生した金額、「白い部分」は地域外への流出額（差額）、「赤い部分」は地域外からの流入額（差額）を示しています。

地域経済循環率

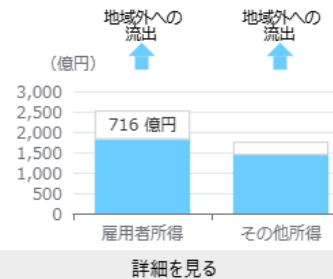
「生産（付加価値額）」÷分配（所得）」より算出され、地域内で生み出された所得がどの程度地域内に還流しているかを把握するものです。100%を超える場合は、地域の稼ぐ力は高いものの、分配される際に地域外に流出しているものと考えられます。

地域経済循環率

132.3%

所得への分配
4,290

分配（所得）



所得からの支出
3,244

分配（所得）の分析

「雇業者所得」の流出とは、この地域に勤務する方々が地域外に給料等を持ち帰っている状態であることを示します。一方、「その他所得」の流出とは、配当や再分配等を通じて他の地域にお金が出ていく状態を示しています。

生産（付加価値額）の分析

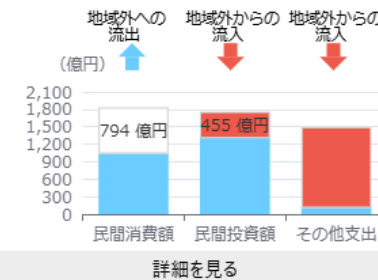
棒グラフは地域の第1,2,3次産業の「付加価値額」であり、「詳細を見る」を押して表示される表により、一人当たりの「付加価値額（労働生産性）」やその「付加価値額（一人当たり）」が全国で何位なのか把握することができます。

生産（付加価値額）



支出による
生産への還流
4,290

支出



支出の分析

各棒グラフは、地域内で消費・投資された金額を示しています。「詳細を見る」を押して表示される表の「支出流入率」とは、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合を示しています。

* 地域経済循環マップ → 地域経済循環分析